

古里の食 考えました

熊本市 大学生が市場体験

競りで流通を実感

熊本市西区田崎町の熊本地方卸売市場（田崎市場）で9日、大学生対象の「市場体験」があり、約70人が模擬競りや施設見学を通して市場の仕組みを学んだ。

食品の流通や安全管理について理解を深めてもらおうと、8月の「食品衛生月間」に合わせ、市保健所が毎年実施。食品衛生管理者や栄養士などの養成コースがある熊本保健科学大、崇城大、尚絅大、尚絅短大から学生が参加した。

模擬競りでは、「競り盆」と呼ばれるカスネット型の

小さな黒板を手に、野菜の競りに挑戦。1品3秒ほどで仕切っていく競り人のスピードに負けじと買値を書き入れ、キャベツやトマトなどを競り落とした。尚絅大4年の明瀬舞さん(22)＝南区城南町＝は「何とかピーマンを競り落としたが、利益など考える余裕はなかった」。あらためてプロの技に驚いていた。

場内の冷凍庫も見学。市場関係者から、残留農薬の自主検査についての説明を聞いた後、キットを使った簡易検査も体験した。（西國祥太）



模擬競りで野菜を競り落とす大学生＝熊本市西区